

## 人間は自分のことを知らない

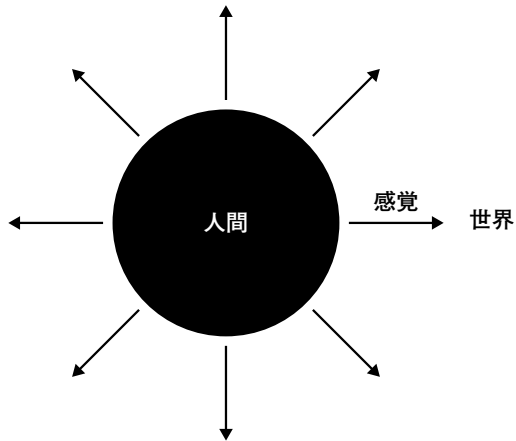
人間は誰でも、心や意識が自分の中に存在すると思っっている。しかし、自分の体の中を自分自身で確認することはできない。

人間をはじめ、生物の感覚器は皮膚組織が発展したものであり、すべて外を向いている。目も耳も、自分以外の存在を感知するための器官であり、自分の中を知るための機能はない。自分の顔や頭の後ろ、背中などは見えないし、ましてや内臓となれば、直接その存在を自らの目で確かめることは不可能である。心や意識を司る脳をはじめ、体内のいろいろな臓器に対する実感はなく、自分自身の状態や意識を直接観察することはできない。

普段から自分で自分のことがわかっているつもり人間は、自分の体の中を見ることすらできないのである。

では、どうやって自分自身のことを自覚するのだろうか？

それは、他者を通してである。他者を観察することではじめて、自分自身を類推することができる。心や感情という実体のないものも、他者との社会的な関わりの中でその存在が確信できるものになっていく。相手に心があると思うから自分にも心があると信じられる。他者を観察することが、自分を理解することにつながるのである。



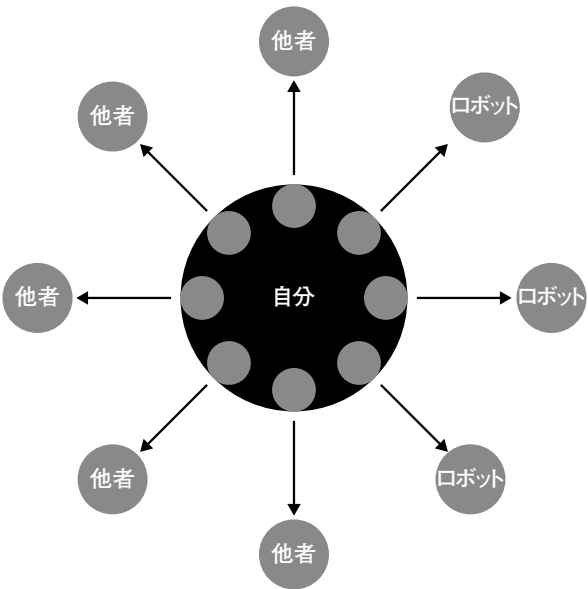
## 他者との関わりを通して生まれる自我

他者の気持ちを考えたりコミュニケーションをとったりすることは、自分自身について考えることと同じことである。自分の中を直接見ることはできないが、他者を見て、相手に感情があるとか意識があると感じられれば、自分も同じように感情や意識があると思える。

もし、この世にたった一人の人間しかいなければ、他者との比較も生じないし、コミュニケーションのための言語も生まれない。つまり、自分自身を認識することができない。自我は、遺伝的に発現するようにあらかじめ準備されているが、他者とコミュニケーションをとることで初めて生成される。

人間は多くの他者と関わることで自分の欲求や意図を知ることができ、自分の意識が見えてくる。他者との関わりの中で、相手と自分との違いを知ることができる。多くの人間から少しずつ異なる要素を取り込んでいくことで、自分の中の側面を集めて映し出していくことになる。これが自分を理解するというプロセスである。

他者と同様に、ロボットも自分自身を映し出す鏡になる。欲求や意図をもったロボットができれば、ロボットを通して自分とは何かということを理解していくことができるだろう。ロボットの研究は人間理解の一つのアプローチである。



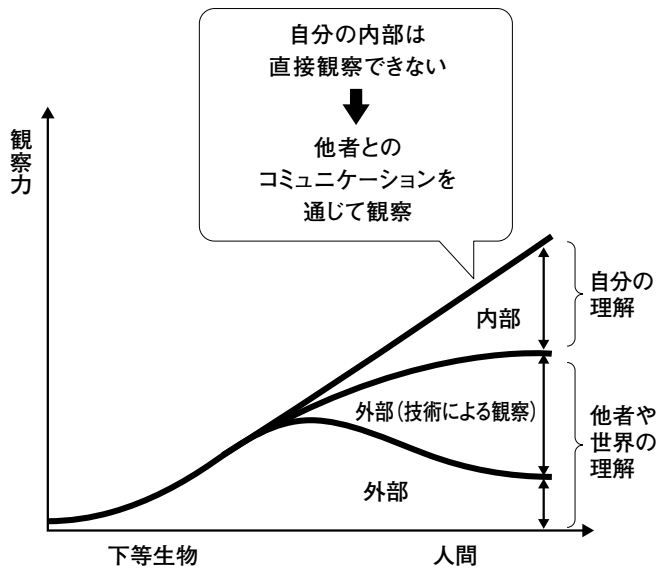
## 外部観測と内部観測

生物は、より高等な生物へと進化する中で感覚器が発達していく。下等な生物では認識できなかった外部環境が、感覚器の機能の充実によって認識できるようになり、外界を把握する外部観測の能力が増加していく。

ところが、さらに高等な生物になると、感覚器の能力は低下していく。人間の嗅覚や聴覚などは、他のほ乳類に劣っていることが多い。しかし、人間は道具や技術を使うことで感覚器の低下を補い、他の生物よりも外部観測の能力を高めることができる。犬よりも嗅覚が劣っていても、地図を使えば犬には到達できない遠くの目的地まで行ける。

外部観測に対して、自分自身を理解することを内部観測と言い、人間だけがもつユニークな特徴である。ある程度高等な生物は「うれしい」「悲しい」といった感情をもっているが、「自分はうれしいのか、それとも悲しいのか」「なぜうれしいのか」と考えるのは人間だけである。

脳が発達すると、未知の部分も認識できるようになる。わからないことがたくさんあるということが、次第にわかってくるのである。そうになると、いろいろな面で効率がよくなる。他者の気持ちを想像してみるとか、何をしようとしているのか考えることができ、社会生活を円滑にしている。



## ロボット工学と認知科学

認知科学とは、人間の心や意識、具体的には記憶や思考といった知的活動を研究して、その仕組みを解明する学問である。そして、心理学や言語学、脳神経科学、哲学、社会学など幅広い分野にまたがる総合科学である。

認知科学で得られる人間のふるまいや相互作用に関する知見を、ロボット工学で再現して確かめる。ロボット工学に基づいてつくられたロボットを、認知科学の観点から人間らしくなっているかどうかを確かめる。二つの分野はお互いに仮説と検証をし合う関係になっている。

これまで、人間らしさを限りなく削ぎ落としたロボットから人間的な見た目を追求したロボットまで、さまざまなロボットをつくってきた。いずれにしても中身は機械であり、アクチュエータの動作や会話のシステムなどはロボット工学の賜物である。

しかし、そのようにして生まれたロボットに対して人間が「心がある」とか「人間のようだ」という感覚を抱いたとすれば、心や人間らしさを工学的に再現できたことになる。すなわち、「心」をもったロボットを分解してみることで、心の正体がわかるかもしれない。

